

木々が緑の葉を生き茂らせる、清々しい山の季節がやって来ました。市内各地で山開きが行われ、登山や山菜採りツアーなどが催されました。
※各イベントは新型コロナウイルス感染症予防対策をとった上でを行っています。

トピックス
TOPICS 6
山の季節がやって来た！
～初夏の山だより～

おお ひら やま
大平山
(常盤地区)
標高 814m

高い山運開き & 山菜採りまつり

5月30日に細野集落で登山と山菜採りツアーが行われ、約30人が参加しました。登山コースでは、直線的で急な坂道を這いつくばるように登り、途中細野やニツ森などが望める場所でしたが、頂上はガスがかかり真っ白。次の機会の楽しみに持ち越しとなりました。山菜採りコースではミズやアイコなどを収穫し、初夏の山を楽しみました。



ふた つ もり
ニツ森
(玉野地区)
標高 742m

山開き・地域合同安全祈願祭

5月30日に玉野地区のシンボルニツ森の山開きが行われました。今年はコロナ対策として玉野地区住民に限っての参加となりましたが、子どもたち30人とスタッフを含めて総勢70人が「女山」に登りました。少し寒い天候でしたが、約1時間で山頂に到着。遠くの山並みは残念ながら見えませんが、田植えが終わった玉野地区の風景を楽しむことができました。



おきなさん
翁山
(宮沢地区)
標高 1,075m

「翁山を愛する会」解散 感謝の看板設置

翁山の保全活動や登山イベントなどの広報活動を行ってきた地元の有志団体「翁山を愛する会」。会員の高齢化と活動に一通りの区切りがあったことから、40年の節目となる今年度をもって解散することになりました。6月6日の山開きに先立って会長と副会長がハリマ小屋前に感謝の意を表す看板を設置。愛する会がなくなっても、四季折々の植物や雄大な景色が望める素敵な翁山を愛で、守り、楽しく登山したいものです。



▲翁山の登山口「ハリマ小屋」駐車場に、これまでの感謝の意を表す看板を設置した。翁山を愛する会大貫寛一郎会長(写真右)と山口忠博副会長(写真左)

トピックス
TOPICS 4
「銀嶺荘」浴室
上の畑焼陶壁画修復

老朽化のため取り壊しとなった尾花沢市高齢者コミュニティセンター「銀嶺荘」。浴室に貼られていた上の畑焼の陶壁画が修復されました。



▲修復され、新たに装飾額も施された上の畑焼陶壁画。1m×1mの大きさと、4枚とも違う絵がタイルで表現されています。(写真は、陶壁画を制作した伊藤瓢堂さん(左側)と、装飾額と台を制作した山口忠博さん(右側))。



【予告】
芭蕉、清風歴史資料館特別企画展
「上の畑焼復興40年のあゆみ」
7月22日(木)～8月10日(火)
※今回修復した陶壁画も展示します。
お楽しみに！

銀嶺荘は、高齢者の健康増進などを目的に昭和57年1月に銀山区(上の畑焼陶芸センター隣)に開設され、長年市民に親しまれてきました。銀山温泉から給湯管でお湯を引いた浴室もあり、誰もが利用できる温泉施設としても活用されてきました。しかし、銀山温泉から分湯していた湯量が減少したこと、施設や配管設備が老朽化したことにより、令和2年12月に取り壊しとなりました。
銀嶺荘浴室の壁には、上の畑焼で作られた陶壁画が貼られていました。これを市の貴重な文化財として保存するため、壁面から陶壁画の部分を取り出し、修復する作業が行われました。陶壁画は4枚あり、上の畑焼陶芸家の伊藤瓢堂さんが当時の思いを込めて制作した「飛天図」「芙蓉図」「三多紋」「親子瓢箪」が描かれています。伊藤さんが上の畑焼復興を始めた約40年前の筆遣いや陶の質感、染付を見ることが出来ます。また、修復のため手を加えた部分もあり、上の畑焼の復興当時から現在までの変遷も見て取ることが出来る、貴重な資料にもなっています。宮大工の山口忠博さん制作による装飾額と台も施され、皆さんに間近に見てもらえるような作品に生まれ変わりました。

トピックス
TOPICS 5
資料館に
「バショウ」鉢植え寄贈

野菜農家の鈴木亨さん(河北町)より、芭蕉ゆかりの地である尾花沢でぜひ広めて欲しいとの思いから、「バショウ」の鉢植え2つを寄贈いただきました。



▲寄贈されたバショウ鉢植えは、芭蕉、清風歴史資料館に飾られています。(写真中央が鈴木亨さん)

芭蕉、清風歴史資料館特別企画展
「芭蕉来訪展」
6月24日(木)～7月13日(火)
・開館時間/午前9時～午後4時30分(期間中は無休)
・入館料/大人210円・学生100円
中学生以下無料
※寄贈いただいたバショウの鉢植えもぜひご覧ください。
◎芭蕉、清風歴史資料館 TEL(22)0104

バナナの仲間である「バショウ」は、鉢植えでも2～3m、地植えだと5mほどに成長する植物。松尾芭蕉が江戸深川に住んでいた頃、庭に植えられたバショウが立派に生長し、名物になったことから、俳号を「芭蕉」と名乗るようになったという由来があります。
寄贈された鈴木さんは、尾花沢で農業研修をした経験があり、河北町で野菜農家としてハウレンソウなどを生産する傍ら、温暖化していく将来の農業を見据えてバナナやアボカド、観賞用のバショウの苗を育てています。「松尾芭蕉ゆかりの地に広めたい。児童や生徒の皆さんにもバショウを使って学んでもらえればうれしい。」と思いを語ってくれました。